

# 老人保健編

## 1 医療受給者証・健康手帳の交付

平成16年度末現在の「医療受給者証の交付数」は約1455万2千人で、平成16年度の「医療受給資格者以外の者への健康手帳交付数」は約139万9千人となっている（表1）。

表1 医療受給者証、医療受給資格者以外の者への健康手帳の交付状況

平成16(2004)年度

	医療受給者証の交付 (年度末現在)			医療受給資格者以外の者への 健康手帳の交付 (年度中)		
	総数	75歳以上 1)	65~74歳	総数	40~74歳	75歳以上
交付数 (人)	14 551 977	14 055 856	496 121	1 398 847	1 357 766	41 081

注:1)平成14年10月、老人保健法が改正されたことに伴い、第25条第1項に該当する者「70歳以上」が「75歳以上」に引き上げられたが、「75歳以上」には、経過措置として平成14年9月30日の時点で70歳以上であった者を含む。

## 2 基本健康診査

### (1) 基本健康診査の実施状況の年次推移

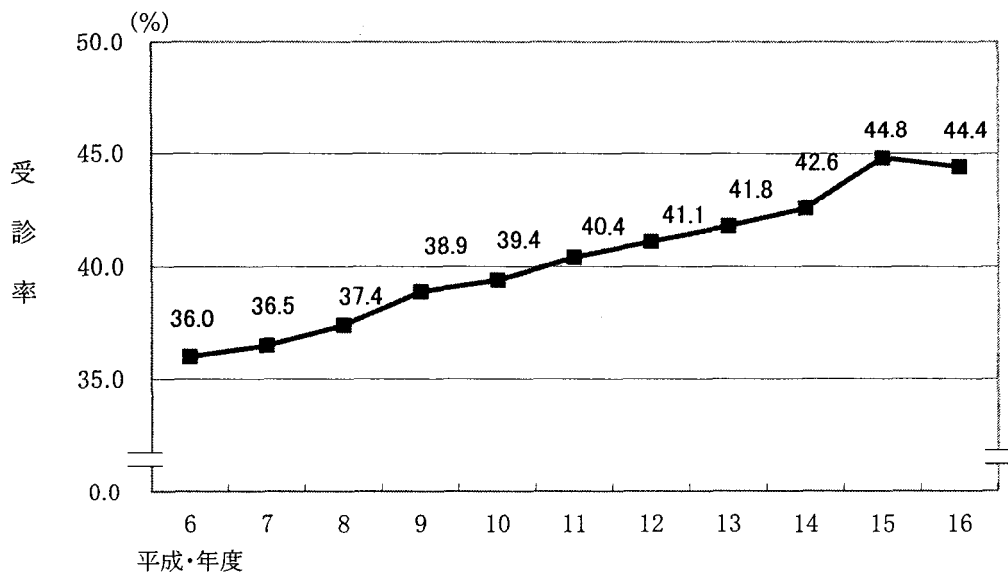
平成16年度の基本健康診査の受診者は約1298万4千人で、受診率は44.4%となっている（表2、図1）。

表2 基本健康診査の実施状況

	平成11年度 (1999)	12年度 (2000)	13年度 ( '01)	14年度 ( '02)	15年度 ( '03)	16年度 ( '04)
基本健康診査 受診者数 (人)	11 210 009	11 532 718	11 847 408	12 330 044	12 941 480	12 983 593
受診率 (%)	40.4	41.1	41.8	42.6	44.8	44.4

注:「基本健康診査受診者数」については、「Ⅲ用語の解説」参照。

図1 基本健康診査受診率



(2) 基本健康診査における性・年齢階級別実施状況

平成16年度の基本健康診査における受診者は約1298万4千人で、「男」約447万8千人、「女」約850万5千人となっており、「女」は「男」の約1.9倍になっている(表3)。

また、性・年齢階級別にみた指導区分「要医療」の構成割合をみると、「男」は「60～64歳」から5割を超え、「女」は「65～69歳」から5割を超えており、「男」「女」とも「75歳以上」で6割を超えている(図2)。

表3 性・年齢階級別にみた基本健康診査における受診者の状況

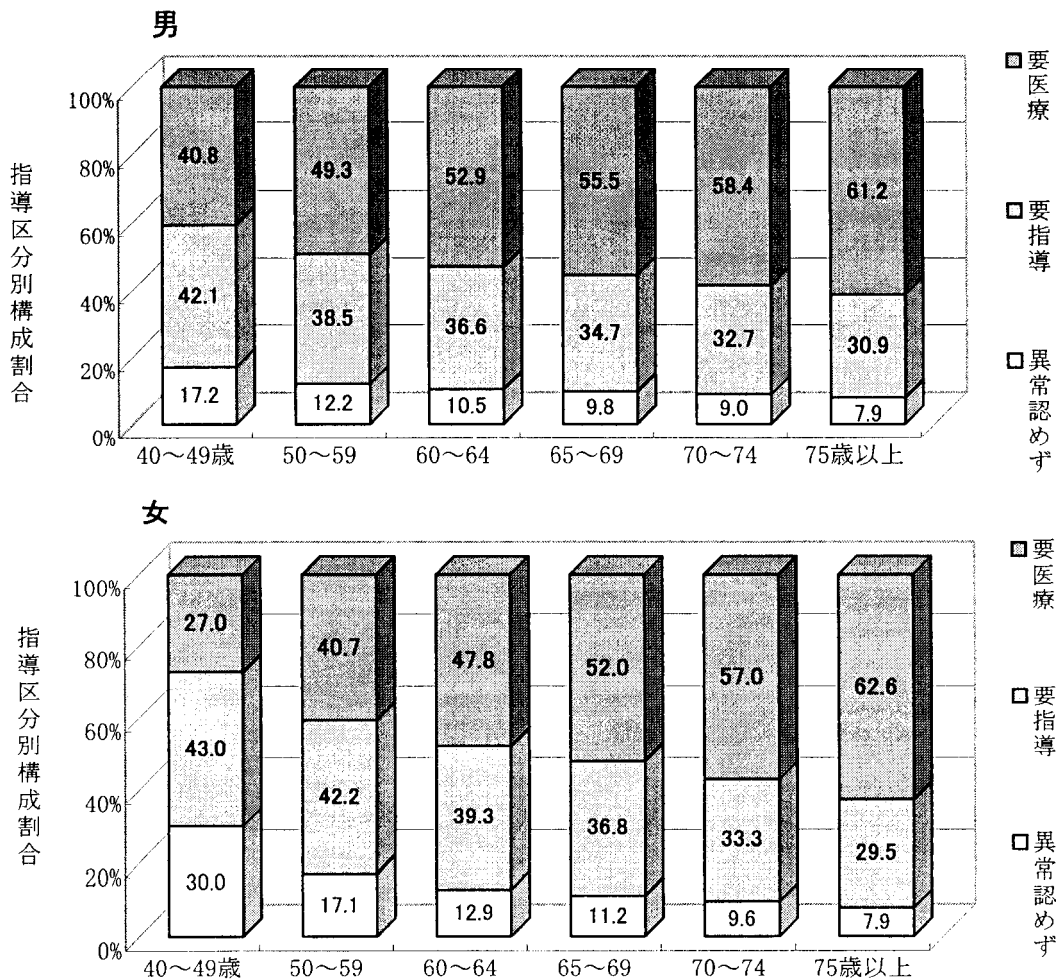
(単位:人)

平成16(2004)年度

	総数	40～49歳	50～59	60～64	65～69	70～74	75歳以上
基本健康診査受診者数	12 983 593	1 341 367	2 457 755	1 995 870	2 283 156	2 185 964	2 719 481
基本健康診査	12 954 892	1 340 614	2 456 205	1 994 588	2 281 181	2 183 029	2 699 275
訪問基本健康診査	27 897	731	1 460	1 192	1 867	2 845	19 802
介護家族訪問基本健康診査	804	22	90	90	108	90	404
男	4 478 372	346 992	629 062	661 779	894 364	894 228	1 051 947
女	8 505 221	994 375	1 828 693	1 334 091	1 388 792	1 291 736	1 667 534

図2 性・年齢階級別にみた基本健康診査における指導区分別構成割合

平成16(2004)年度



### (3) 基本健康診査における喫煙状況

平成16年度の基本健康診査受診者の喫煙率は、「男」32.1%、「女」6.4%となっている。

また、喫煙率を性・年齢階級別でみると、「男」「女」とも年齢が高くなるに従い低くなっているが、「男」の「20本未満」はほぼ横ばいとなっている。(図3)

喫煙率を都道府県別でみると、「男」は「青森」「石川」「山梨」「大阪」で高く、「島根」「広島」「山口」「沖縄」で低くなっている。一方、「女」は「北海道」「東京」「神奈川」「大阪」で高く、「鳥取」「島根」「広島」「鹿児島」で低くなっている。(図4)

注：喫煙率=(吸っている者数/基本健康診査受診者数)×100

図3 性・年齢階級別にみた基本健康診査における受診者の喫煙率

平成16(2004)年度

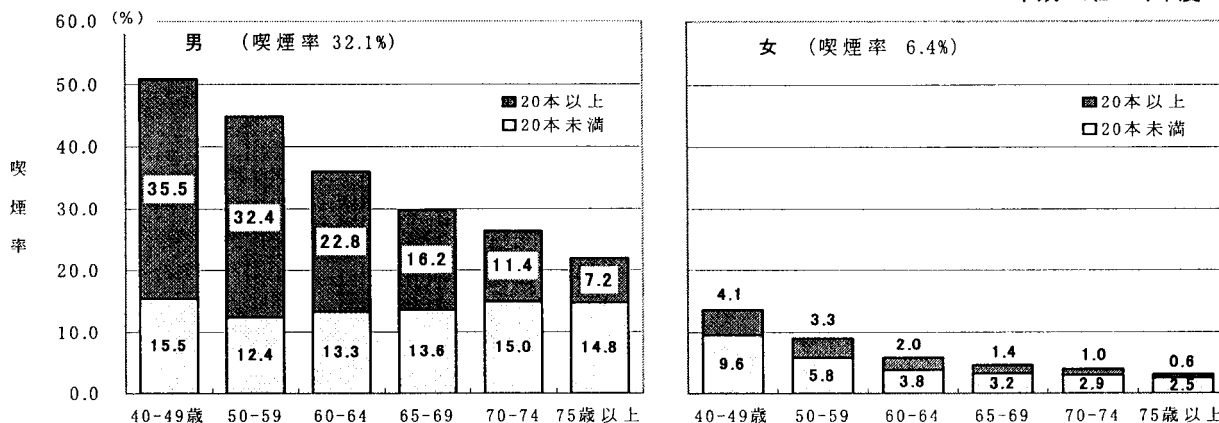
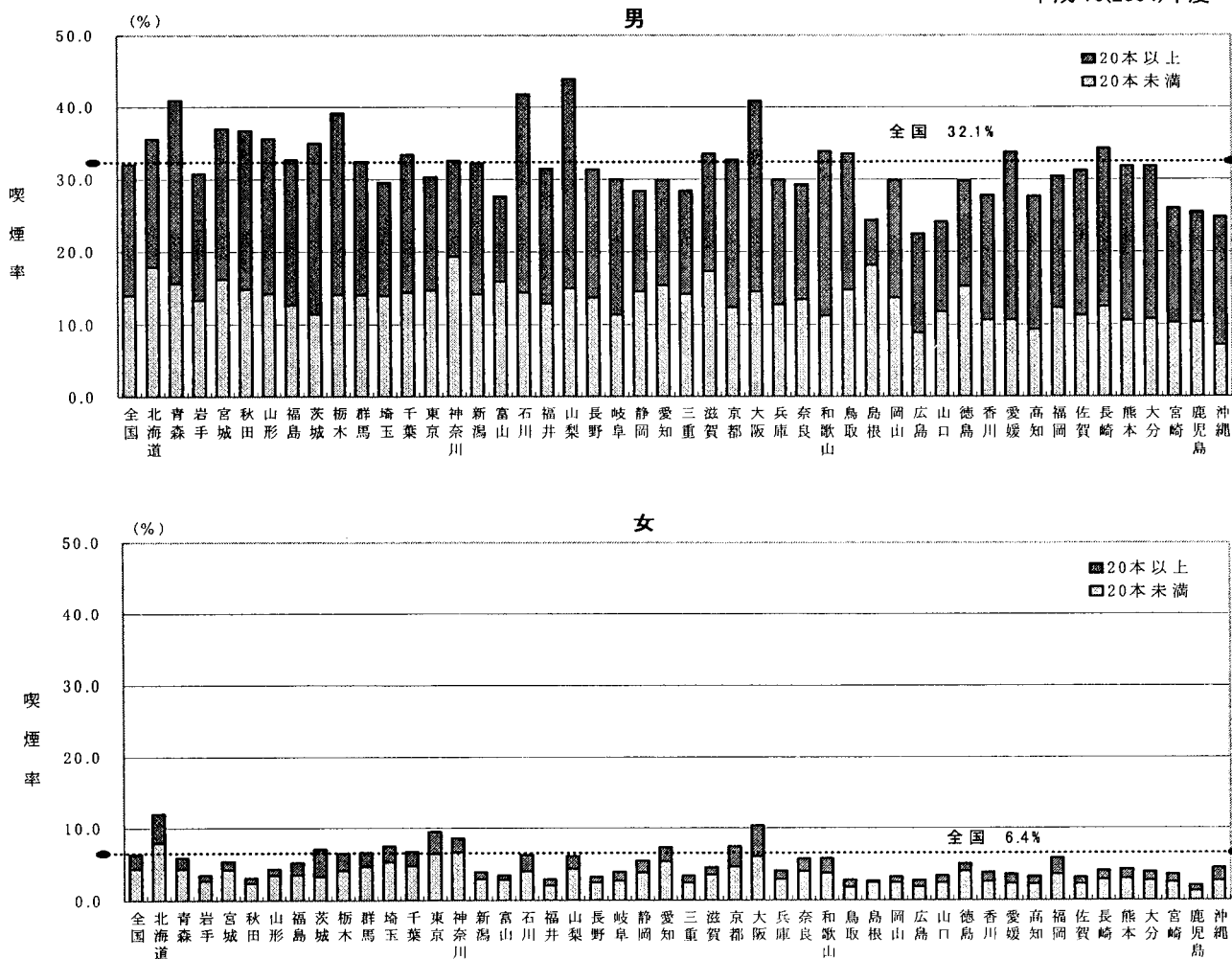


図4 性・都道府県別にみた基本健康診査における受診者の喫煙率

平成16(2004)年度



### 3 歯周疾患検診・骨粗鬆症検診

平成16年度の歯周疾患検診受診者は約8万7千人で、骨粗鬆症検診受診者は約9万1千人となっている(表4)。

指導区分の構成割合をみると、「要精検者」は「歯周疾患検診」で75.8%、「骨粗鬆症検診」で2.8%となっている(図5)。

市区町村における平成16年度の検診実施率は、「歯周疾患検診」43.9%、「骨粗鬆症検診」61.4%となっており、検診実施率の年次推移をみると、年々上昇している(表5)。

表4 歯周疾患検診・骨粗鬆症検診の実施状況

	平成12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	対前年度比(%)
	(2000)	('01)	('02)	('03)	('04)	
歯周疾患検診受診者数(人)	46 015	63 432	72 974	82 669	87 284	105.6
骨粗鬆症検診受診者数(人)	67 046	80 132	82 773	90 855	91 308	100.5

図5 歯周疾患検診・骨粗鬆症検診における指導区分別構成割合

平成16(2004)年度

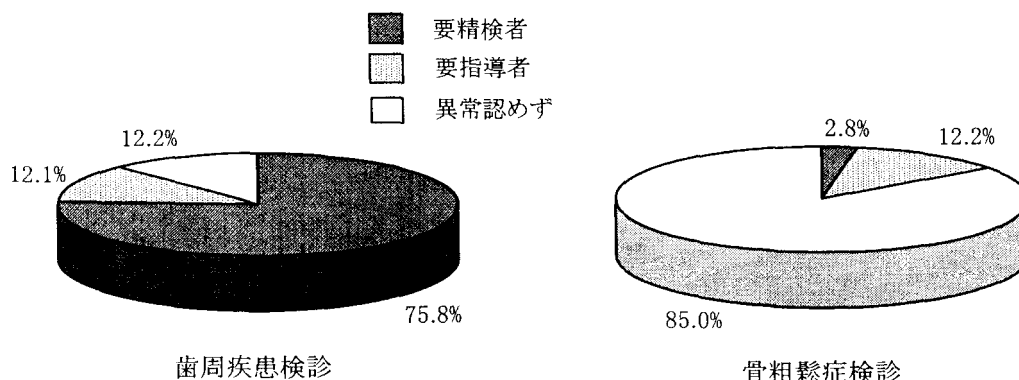


表5 歯周疾患検診・骨粗鬆症検診の実施市区町村数及び実施率

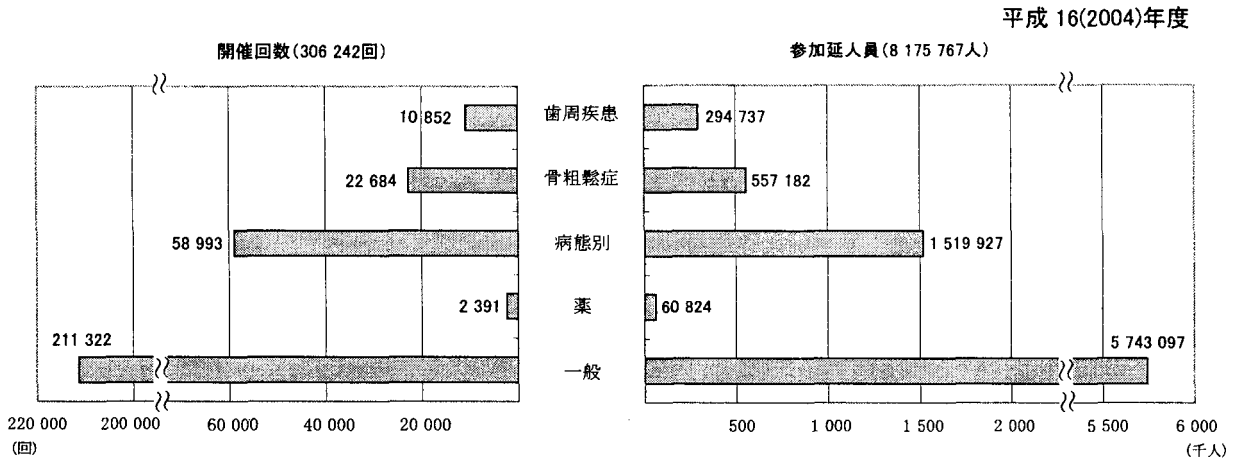
	歯周疾患検診					骨粗鬆症検診				
	平成12年度 (2000)	13年度 ( '01)	14年度 ( '02)	15年度 ( '03)	16年度 ( '04)	平成12年度 (2000)	13年度 ( '01)	14年度 ( '02)	15年度 ( '03)	16年度 ( '04)
実施市区町村数	610	831	991	1 152	1 117	1 406	1 619	1 762	1 812	1 563
実施率(%)	18.8	25.6	30.6	36.5	43.9	43.3	49.9	54.5	57.4	61.4
(参考)市区町村数	3 250	3 246	3 235	3 155	2 544	3 250	3 246	3 235	3 155	2 544

## 4 健康教育

平成16年度の集団健康教育の実施状況は、開催回数約30万6千回、参加延人員約817万6千人となっている。

内容別にみると、開催回数、参加延人員ともに、「一般」が最も多くなっている。(図6)

図6 集団健康教育の実施状況



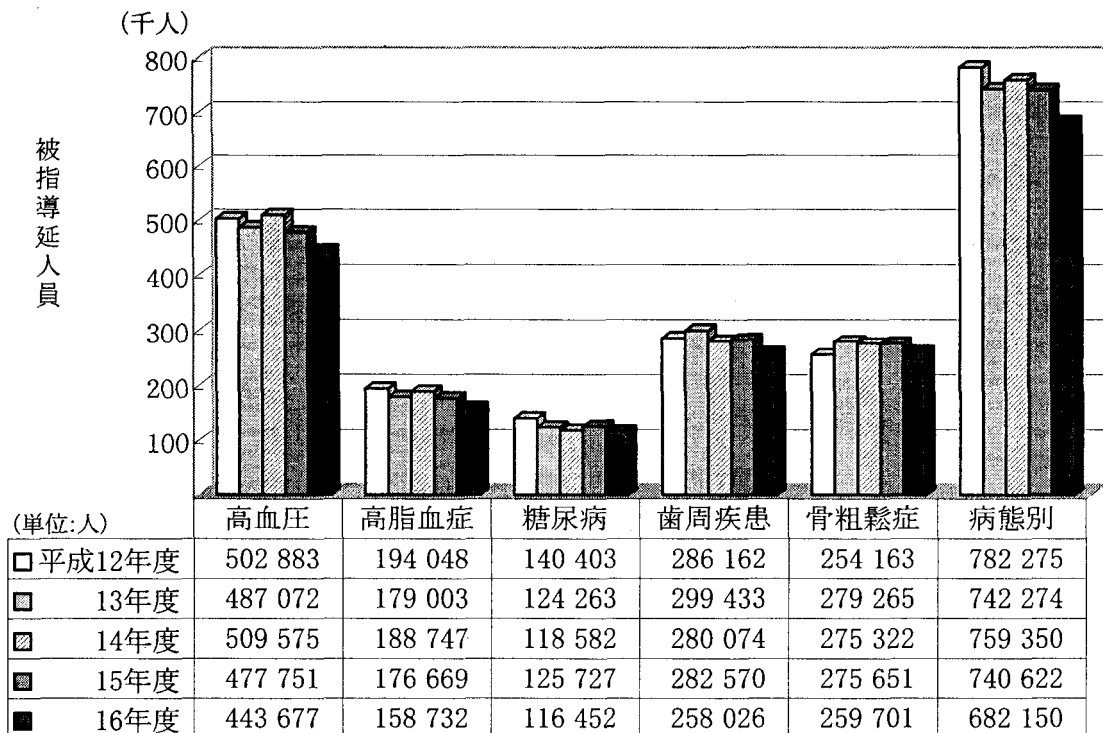
注:「病態別」とは、肥満、高血圧、心臓病等と個人の生活習慣との関係及び健康的な生活習慣の形成についての教育をいう。  
「薬」とは、薬の保管、適正な服用方法等に関する留意事項、薬の作用・副作用の発現に関する知識の教育をいう。  
「一般」とは、生活習慣病の予防のための日常生活上の心得、健康増進の方法、食生活の在り方等健康に必要な事項の教育をいう。

## 5 健康相談

平成16年度の健康相談の被指導延人員は、「病態別」が約68万2千人、「高血圧」が約44万4千人となっている。

また、被指導延人員を年次別にみると、いずれも減少傾向となっている。(図7)

図7 健康相談の被指導延人員



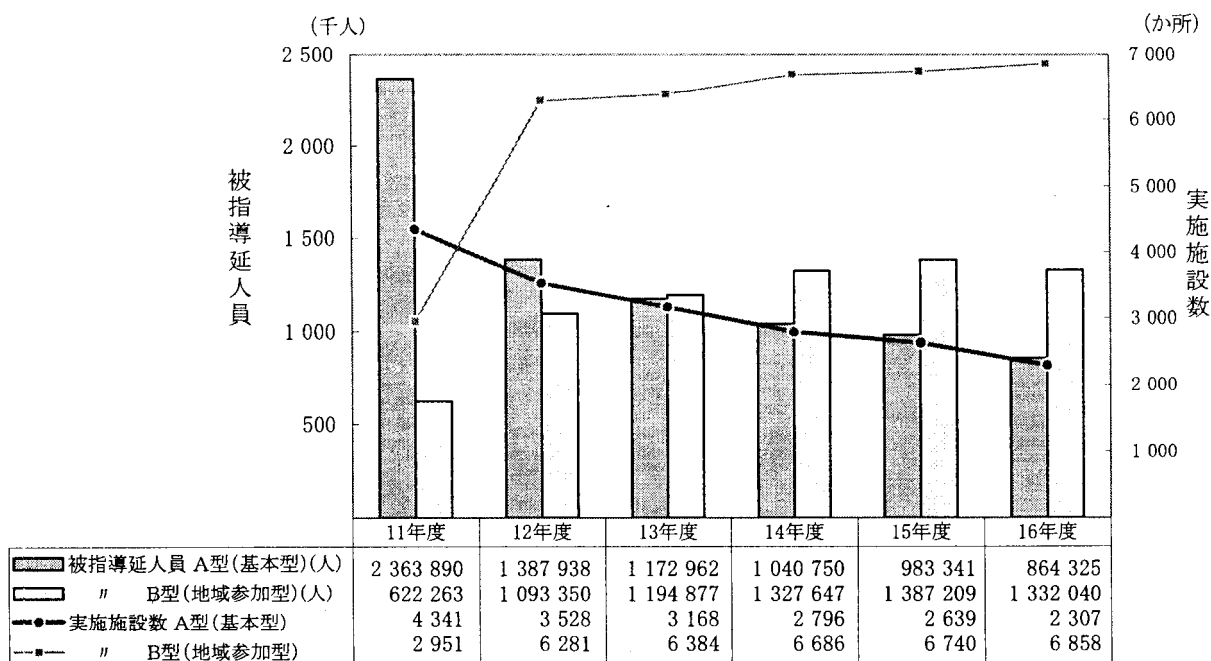
注:「病態別」とは、相談内容の「高血圧」～「骨粗鬆症」を除く、肥満、心臓病等の病態別に、個人の食生活その他の生活習慣を勧奨して行う相談指導等をいう。

## 6 機能訓練

平成 16 年度の「A型（基本型）」の機能訓練実施施設数は 2,307 か所、被指導延人員は約 86 万 4 千人、「B型（地域参加型）」6,858 か所、約 133 万 2 千人となっている。

機能訓練実施施設数の年次推移をみると、平成 12 年度以降、「B型（地域参加型）」は増加し、一方、「A型（基本型）」は減少している。（図 8）

図 8 機能訓練の実施状況

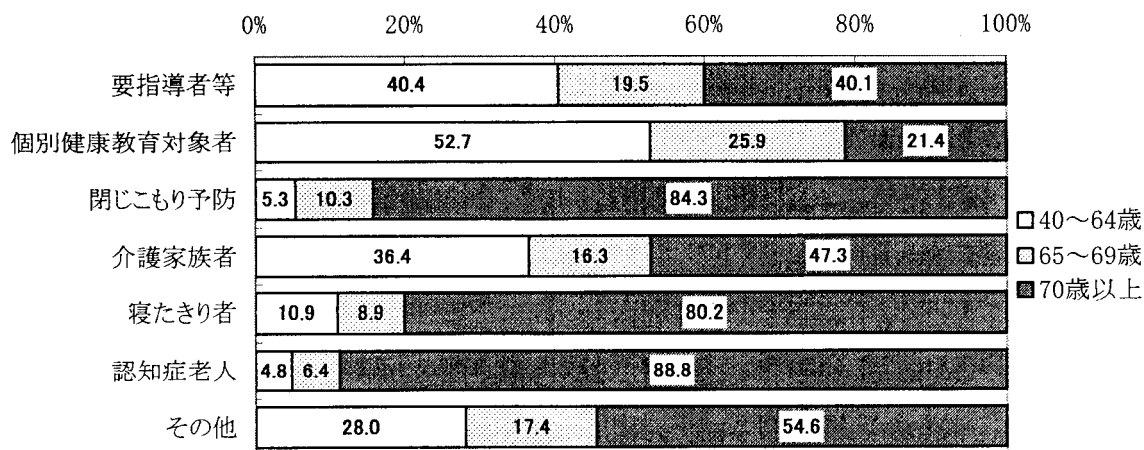


## 7 訪問指導

平成 16 年度の被訪問指導実人員を指導内容ごとに年齢階級別の構成割合をみると、「要指導者等」は「40～64 歳」「70 歳以上」に多く、「個別健康教育対象者」は「40～64 歳」に多くなっている。また、それ以外の訪問指導内容については「70 歳以上」の割合が多くなっている。（図 9）

図 9 訪問指導内容・年齢階級別にみた被訪問指導実人員の構成割合

平成 16(2004)年度



## 8 がん検診

### (1) がん検診の受診状況

平成16年度のがん検診の受診率は、「胃がん」12.9%、「肺がん」23.2%、「大腸がん」17.9%、「子宮がん」13.6%、「乳がん」11.3%となっている(表6、図10)。

「がんであった者のがん検診受診者に対する割合」は、「乳がん 視触診方式及びマンモグラフィ」0.24%、「大腸がん」0.16%となっている(表7)。

表6 がん検診受診者数及び受診率

		平成11年度 (1999)	12年度 (2000)	13年度 ( '01)	14年度 ( '02)	15年度 ( '03)	16年度 ( '04)
胃がん	受診者数 (人)	4 171 075	4 206 543	4 302 562	4 371 784	4 508 041	4 376 699
	受診率 (%)	13.1	13.0	12.9	13.0	13.3	12.9
肺がん	受診者数 (人)	7 127 240	7 267 718	7 412 212	7 490 412	7 841 092	7 769 635
	受診率 (%)	22.3	22.6	22.8	22.8	23.7	23.2
大腸がん	受診者数 (人)	5 271 196	5 480 593	5 755 703	6 052 473	6 403 659	6 430 450
	受診率 (%)	15.3	15.8	16.5	17.1	18.1	17.9
子宮がん	受診者数 (人)	3 508 486	3 577 540	3 825 670	3 863 380	4 087 444	3 995 021
	受診率 (%)	13.7	13.8	14.6	14.6	15.3	13.6
乳がん	受診者数 (人)	3 057 444	3 093 798	3 279 212	3 337 202	3 488 074	2 698 947
	受診率 (%)	11.7	11.7	12.3	12.4	12.9	11.3

注：1) 受診率=(受診者数/対象者数)×100

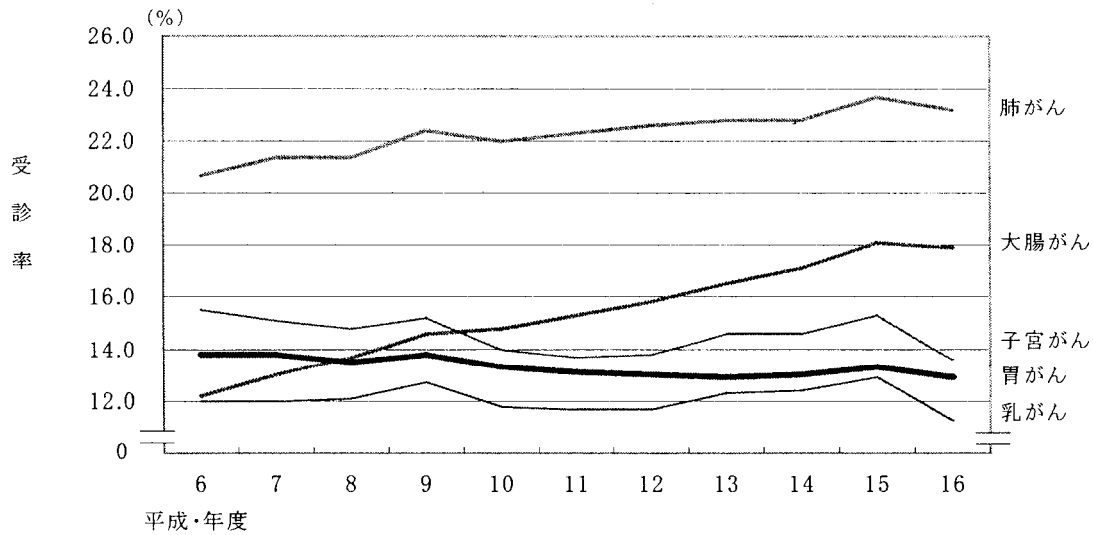
2) 「受診者数」については、「Ⅲ用語の解説」参照。

表7 がん検診における要精密検査者及びがんであった者の割合

平成16(2004)年度

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん		乳がん	
				頸部のみ	頸部及び体部	視触診方式	視触診方式及びマンモグラフィ
がん検診受診者数 (人)	4 376 699	7 769 635	6 430 450	3 587 439	407 582	1 599 234	1 099 713
要精密検査者 (人)	486 437	232 274	448 555	40 033	7 661	75 867	98 036
「がん検診受診者」に対する割合 (%)	11.11	2.99	6.98	1.12	1.88	4.74	8.91
がんであった者 (人)	6 439	3 706	9 995	1 960	457	2 406	2 685
「がん検診受診者」に対する割合 (%)	0.15	0.05	0.16	0.05	0.11	0.15	0.24
「要精密検査者」に対する割合 (%)	1.32	1.60	2.23	4.90	5.97	3.17	2.74

図 10 がん検診受診率



(2) がん検診受診率の分布状況

平成 16 年度の市区町村のがん検診受診率の分布をみると、「肺がん」は受診率の高い市区町村が多く、一方、「子宮がん」「乳がん」は低い市区町村が多い (表 8, 図 11)。

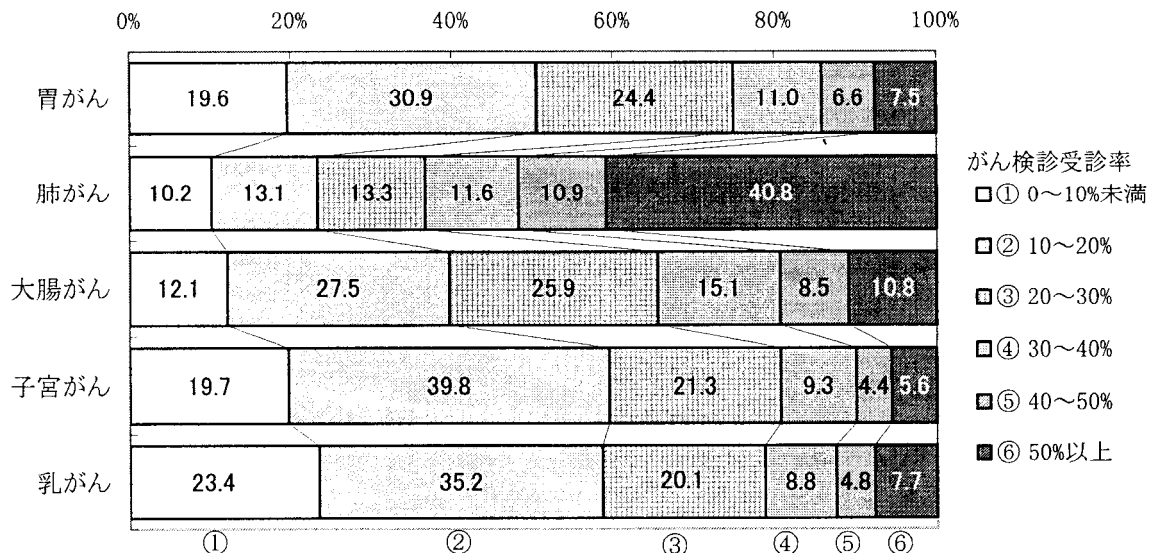
表 8 市区町村におけるがん検診受診率の分布状況

平成 16(2004)年度

	全国 市区町村数	がん検診受診率					
		0~10%未満	10~19%	20~29%	30~39%	40~49%	50%以上
胃がん	2 544	499	786	621	279	167	192
肺がん	2 544	259	334	339	295	278	1 039
大腸がん	2 544	309	699	659	385	216	276
子宮がん	2 544	501	1 012	541	237	111	142
乳がん	2 544	596	895	512	224	122	195

図 11 市区町村におけるがん検診受診率の分布状況

平成 16(2004)年度





(3) 市郡別にみたがん検診受診率

平成 16 年度のがん検診受診率を市郡別にみると、「政令市 14 大都市」はすべてのがん検診において全国平均より低く、「郡部」はすべてのがん検診において全国平均より高くなっている（表 9、図 12）。

表 9 市郡別にみたがん検診受診率

平成 16(2004)年度

(単位:%)

		胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん
全 国		12.9	23.2	17.9	13.6	11.3
政令市	14大都市	7.5	9.5	11.4	11.2	6.4
	その他政令市	9.8	20.2	17.6	12.4	9.4
政令市以外の市		13.1	24.1	18.6	13.5	11.8
郡 部		21.4	39.0	25.1	18.7	18.3

注:「市郡」は、「Ⅲ用語の解説」参照。

図 12 市郡別にみたがん検診受診率

平成 16(2004)年度

